

令和2年度 学校教育自己診断 分析

生徒（この学校に入学して良かった） 肯定率 78%

保護者（子どもをこの学校に入学させて良かった） 肯定率 87%

昨年度の結果と比べると数値は下がっている。コロナ禍のため、行事・部活動などが中止または縮小された影響があり、学校生活を物足りないと感じている生徒がいることは予想される。今後は、コロナの事態のなか、感染防止に最大限配慮しつつ、取組みを 継続していくことが大切である。

保護者（学校からホームページ・メルマガを通じ適時情報提供がされている） 肯定率 77%

教職員（教育活動に必要な情報について、ホームページやメルマガを通じて生徒・保護者や地域への周知に努めている） 肯定率 84%

断続的に学校休校があるなか、ホームページの更新やメルマガジンの配信の回数は増えたため、昨年度と同等の肯定率を維持している。今後も保護者の方々としっかり連携していきたい。

（授業関連）

肯定率 生徒 75% 教職員 81% 保護者 51%

昨年度に比べ、教職員の肯定率は6ポイント上がったが、生徒の肯定率は6ポイント下がった。この結果については、放課後、夏休みの補習・講習に関する意識のズレが影響していると推察される。今後は「わかる授業」「できる授業」の確立とともに、生徒のニーズに沿った講習をめざしたい。

（進路関連） 肯定率 生徒 79% 教職員 86% 保護者 67%

昨年度に比べ、教職員の肯定率は大きく上がった。その結果、学校の進路指導は一定評価いただいている。ただコロナの影響で外部模試会場が少ないことや受験会場の環境の変化などが大きくあり、3年生の生徒や保護者の間に不安があったことは否めない。

（人権教育関連） 肯定率 生徒 63% 教職員 66% 保護者 55%

昨年度に比べ、生徒、保護者の肯定率が大きく下がった。生徒が安全で安心できる学校であるために人権教育の体制の立て直しを推進していきたい